

# 紀南教会瓦版

発行元 紀南教会  
 紀南教会瓦版編集委員  
 和歌山県田辺市  
 下屋敷町80  
 TEL/EAX  
 0739-25-1191



今夏も大変に厳しい暑さでした。そして相次ぐ台風。大きな被害で今も大変な状況に居られる方々。心からお見舞い申し上げます。向寒の折、主のお守りとお支えを日々お祈りしています。秋は一瞬に過ぎていきました。

二〇一三年も後一ヶ月弱になりました。悲喜こもももの一年。今年最後の瓦版をお届けします。

編集員一同

## 「は恵みの時」

はじめに、この一年の締めくくりとなる大切な紙面を未熟な信者の拙文で埋めてしまい申し訳なく存じますが、それも、もし何か役に立つ様な事がほんの少しでもございしましたら何よ

り嬉しく存じます。先日読みました本の中の一文の表題に『「は恵みの時」というのがあります。何だと思われませんか。一般の考えであればまさかと思われませんか。けれどそれは『「病の時」は恵みの時』と書かれてあります。

「その〇〇は幸いである」といふ様に書かれている箇所があり、その〇〇の部分

は果たして幸いと言えるだろうか？と思ってしまう様な事が書かれていたりして、聖書って難しいなと思ったり、どのように受け入れたら良いものかと困ったりした事もありました。

此の度の「病の時」は恵みの時」といふ一文には素直にあゝそうだ、その通りだと素直に頷く事が出来ました。

人生の最終章に入ってしまったので、この様な事ごといでヒーヒー言っているなら

え、考えてみればその人が負えるものしか負わせないとされている通りの重荷としか思えないものであったので、この様な事ごといでヒーヒー言っているなら

## 愛する者のために流す涙

紀南教会牧師 上山耕司

「戸締まりをしない家」という話を聞いたことがありません。家を捨て、出て行った子供がたとえ真夜中だろうが、いつ帰ってきてもいいように戸に鍵をかけたまま、危険を顧みないで、子供の帰りを待ち続ける母の話です。親にとって最も辛く悲しいことは子供が間違った道に行き、墮落していくことです。親は子供が正しい道に立ち帰り、幸いを得るように願ひ、祈り、待つのです。そして、不憫な子を思い、涙を流すのです。

ミヤは涙の預言者と呼ばれ、創造主なる神から離れ、墮落していく民へ、「立ち帰れ！ユダの人々よ」と神の言葉を涙を流しながら叫んだ人です。しかし、民はそれを聞き入れず、なおもその傲慢に泣く。涙が溢れ、

わたしは目を涙を流す。主の群れが捕らえられて行くからだ。「エレミヤの目はユダの人々がバビロンに引かれていく哀れな姿が見

えていたのででしょうか。彼は涙ながらにユダの罪を指摘し、その裁きを語り、悔い改めて、立ち帰れ、と最後まで語り続け、殉教して行きました。

イエス様がベタニヤ村の近くまで来たときには、すでに愛するラザロは死んで四日経っていました。イエス様はラザロの姉妹のマリアや彼女と一緒にいたユダヤ人たちが泣いているのを見て、涙を流されました。

（ヨハネ一一・三五）イエス様はラザロとの別れがつかなくて涙を流されたのでしようか。生きていくうちに到着して癒してあげることができなかつたことを悔やんで涙を流されたのでしょうか。イエス様はこの後、ラザロを墓の中から呼び出さ

った体が不自由になった事によって本当に多くの事を知らされ体験させられる事になりました。連日ラザロの時間があ

偶像に心を寄せ、不道徳に走るのです。神はついに裁き手としてバビロニア帝国を呼び寄せ、ユダ王国は滅ぼされ、主だった民は奴隷

わたしは目を涙を流す。主の群れが捕らえられて行くからだ。「エレミヤの目はユダの人々がバビロンに引かれていく哀れな姿が見

を流された記事が二回出てきます。一回はラザロが死んだとき、もう一回はエルサレムの都を見たときでした。

最後に話は変わりますが一年ほど前、異常気象になったらこの様になると聞いていた事が今年殆ど全てと言っていいほどその通りになってしまいました。

これは我が国だけではなく地球全体がその様で、つい最近読んだところでは異

もなく御自分が受けようとしている十字架の苦しみに圧倒されて涙を流したのでしようか。いいえ、自分のためにではなく「都のために」涙を流されたとあります。それは、祈りの家であるベ

きエルサレム神殿を自分たちの欲望の場所にした宗教指導者達、イエス様は何度も彼らの罪を指摘したのに、聞く耳を持たないばかりか、ついには保身のために義なる方をも殺し、滅びをその身に受けようとする愚かな罪の姿に涙を流されたのです。



猛暑の連続、局所的長時間集中豪雨、竜巻、超強力台風・・・これらにどう対処していったら良いのか。ひとりひとりの信仰の根本を問われているように思えます。

次号四十号は来年二月二十三日の発行予定です。